

# 8月9日の発表

報道発表資料の配付日時 8月9日(火) 11時30分

発表項目 (行事名)	北海道電力(株)泊発電所3号機の取扱いに関する国からの回答について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>本日、調整運転中の北海道電力(株)泊発電所3号機の取扱いに関して、別添のとおり国から文書回答がありましたのでお知らせします。</p> <p>【照会事項(H23.7.14)】</p> <p>①調整運転中の泊3号機の最終検査は、再稼働ではなく運転の継続であるという国の見解</p> <p>②調整運転中の泊3号機は、稼働中の原子炉と同様に、ストレステストの二次評価の対象となるという国の見解</p> <p>③ストレステストと安全性の担保に関する国の見解</p> <p>※7月16日に大飯1号機(調整運転中)が、トラブルにより手動停止したことに伴い、大飯のトラブルと泊3号機の関係について、回答に付記してもらうよう要請(7/19)</p>		
参考			

報道(取材)に当たってのお願い	
他のクラブとの関係	同時配付(場所) 同時レク

担当(連絡先)	総務部危機対策局原子力安全対策課環境安全G主幹(担当者:前川 清三郎) TEL 011-231-4111(内線22-853)、011-204-5012(直通)
---------	--



平成23年8月9日

北海道知事 高橋 はるみ 殿

経済産業大臣 海江田万里

平成23年7月14日付け原安第256号及び平成23年7月19日付け原安第256-2号にてご質問のあった4事項について、以下のとおり回答します。

1. 調整運転中の泊3号機の最終検査は、再稼働ではなく運転の継続であるという国の見解

(回答)

現在、調整運転中の泊原子力発電所3号機はすでに原子炉が起動し運転中の状態にあり、また、今後予定される国による最終検査（総合負荷性能検査）は、運転状態において行う検査であることから、同検査の時点においても引き続き運転が継続している状態にある。そのため、同検査を受けて営業運転に移行することは、運転の継続であり、再稼働にはあたらない旨を改めて整理した。

2. 調整運転中の泊3号機は、稼働中の原子炉と同様に、ストレステストの二次評価の対象になるという国の見解

(回答)

泊原子力発電所3号機については、すでに原子炉が起動し、運転中の状態であることから、安全性に関する総合評価（いわゆるストレステスト）における二次評価の対象となる。

3. 停止した大飯発電所1号機のストレステスト上の扱い、及び今回の大飯のトラブルが泊発電所3号機のストレステスト上の扱いに与える影響の有無についての国の見解

大飯原子力発電所1号機は、平成23年7月15日に発生したトラブルにより原子炉を停止しており、「定期検査中であって原子炉が停止している」ため、再起動に際しては、安全性に関する総合評価における一次評価の対象となる。一方、泊原子力発電所3号機については、現状においてこのようなトラブルはなく、運転中であることから前述のとおり二次評価の対象となる。



#### 4. ストレストテストと安全性の担保に関する国の見解

(回答)

原子力発電所の安全性については、通常法令上の確認に加えて、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、緊急安全対策等を講じ、従来以上に慎重に安全性のチェックを行ってきたところである。

今般導入された安全性に関する総合評価は、原子力発電所の更なる安全性の向上と、安全性についての国民・住民の方々の安心・信頼の確保のために、欧州諸国で導入されたストレストテストを参考に、新たな手続き、ルールに基づく安全評価として実施するもの。

具体的には、一次評価により、定期検査中で起動準備の整った原子力発電所について順次、設計上の想定を超える事象に対しどの程度安全裕度を有するのかを評価する。また、二次評価により、泊原子力発電所3号機を含めた全ての原子力発電所を対象に、総合的な安全評価を実施し地震や津波に対する各原子力発電所の究極的な耐力を評価する。評価においては、事業者が行った評価結果について、原子力安全・保安院が確認し、さらに原子力安全委員会がその妥当性について確認を行うこととしており、一次評価については運転再開の可否について、また二次評価については継続運転の可否についてそれぞれ政府として判断していく。